

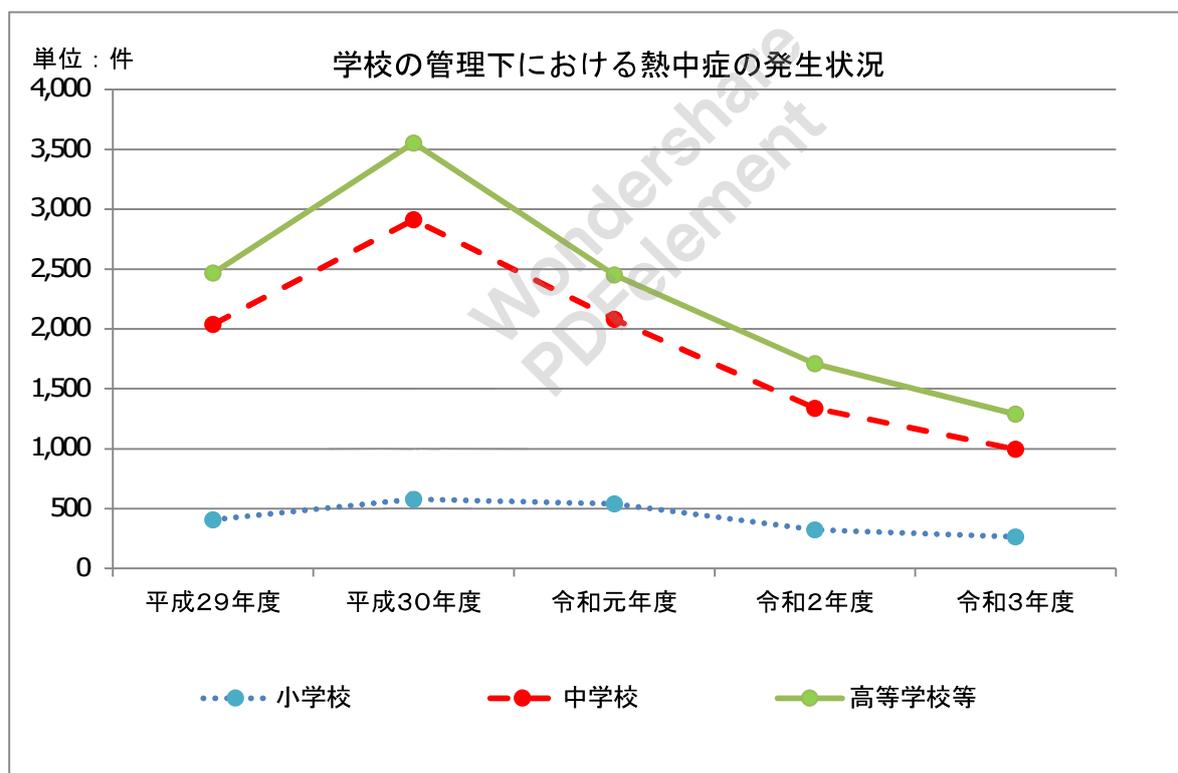
別添1

学校の管理下における熱中症の発生状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
小学校	408	579	541	324	264
中学校	2,038	2,912	2,081	1,338	996
高等学校等	2,467	3,554	2,452	1,709	1,289
計	4,913	7,045	5,074	3,371	2,549

(独立行政法人日本スポーツ振興センター調べ)

※上記は、学校の管理下における熱中症に対して医療費を支給した件数である(令和3年度は速報値)



「熱中症警戒アラート」について

令和4年度は4月27日(水)から10月26日(水)まで実施



環境省

×



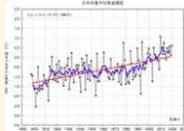
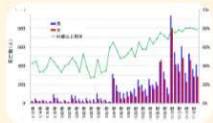
気象庁

熱中症警戒アラート

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による**死亡者数・救急搬送人員**は高い水準で推移しており、気候変動等の影響を考慮すると**熱中症対策は極めて重要**



2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との相関が高い**暑さ指数 (WBGT)**を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数 (WBGT) とは、人間の熱バラスに影響の大きい

気温 湿度 放射熱

の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標です。

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照



3. 発表の基準

- 府県予報区内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が**33以上になると予測した場合**に発表

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安*	日常生活における注意事項**	熱中症予防的運動例***
33以上	すべての生活活動において注意	高齢者においては夏服は軽装でも熱中症の危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止。特に子どもは熱中症の危険性が高いため、中止を促す。
28~31℃	すべての生活活動において注意	外出時は日陰を避け、室内では扇風機の活用による涼感を得る。	熱中症の危険性が高いため、運動は中止を促す。特に子どもは熱中症の危険性が高いため、中止を促す。
25~28℃	中等度以上の生活活動において注意	運動や激しい作業をする際は、事前に充分に水分を摂取し、涼しい環境で休憩する。	熱中症の危険性が高いため、運動は中止を促す。特に子どもは熱中症の危険性が高いため、中止を促す。
21~25℃	強い生活活動において注意	一般的に危険性は少ないが、長時間の運動や激しい作業には注意する。熱中症の危険性が高いため、運動は中止を促す。特に子どもは熱中症の危険性が高いため、中止を促す。	熱中症の危険性が高いため、運動は中止を促す。特に子どもは熱中症の危険性が高いため、中止を促す。

注1) 日本生気象学会指針より引用

注2) 日本スポーツ協会指針より引用

4. 発表の地域単位・タイミング

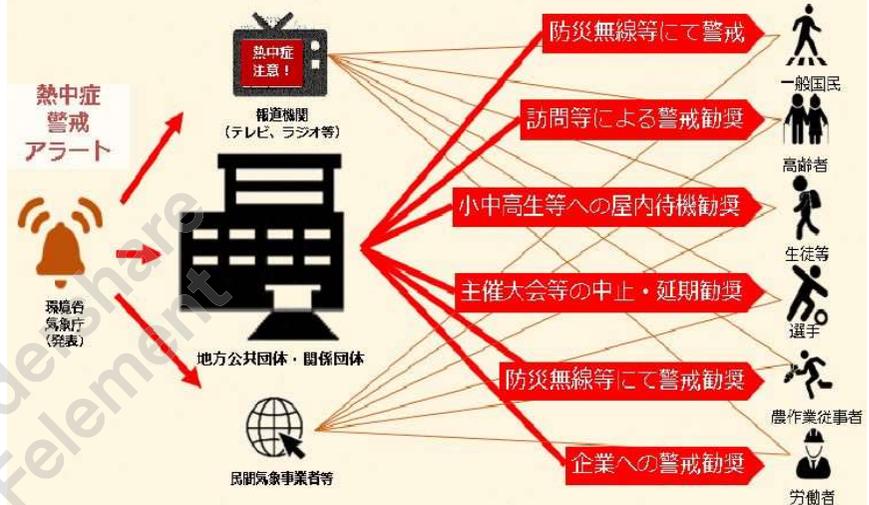
<地域単位>

- 気象庁の**府県予報区等単位**で発表
- 該当府県予報区内の観測地点毎の予測される暑さ指数 (WBGT) も情報提供

<タイミング>

- 前日の17時頃及び当日の朝5時頃**に最新の**予測値**を元に発表
- 報道機関の夜及び朝のニュースの際に報道いただくことを想定
- 「気づき」を促すものであるため、一度発表したアラートはその後の予報で基準を下回っても取り下げない

5. 情報の伝達方法 (イメージ)



※ 農作業従事者向けの「MAFFアプリ」や訪日外国人旅行者向けの「Safety tips」、LINE公式アカウントをはじめとしたSNSアカウント等も活用し、情報を発信。

6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予測される日の前日または当日に発表されるため、**日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底**することが重要。

(例)

- 不要不急の外出は避け、昼夜を問わずエアコン等を使用する。
- 高齢者、子ども、障害者等に対して周囲の方々から声かけをする。
- 身の回りの暑さ指数 (WBGT) を確認し、行動の目安にする。
- エアコン等が設置されていない屋内外での運動は、原則中止/延期をする。
- のどが渇く前にこまめに水分補給するなど普段以上の熱中症予防を実践する。

7. 令和3年度の実績

全国における **発表地域：53地域/58地域**
発表日数：75日/183日
延べ発表回数：613回
 ※4/28~10/27時点